

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

－開会挨拶－



松江市長 松浦正敬

平成22年度の日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会を松江市で開催いただきましてまことにありがとうございます。

本日は何かとご多用の中にもかかわりませず、国土交通省からは港湾局担当の大臣官房審議官三好信俊様をはじめ、各地方整備局の皆様、ネットワーク会員として北は山形県から南は長崎県まで全国各地から多くの自治体の皆様方にこの松江にお越しをいただきましたことに心から歓迎を申し上げます。

今皆様方はそれぞれの地域でいろいろなお仕事に携わっておられるわけですが、最近の仕事をやっていくうえでのキーワードはまさに“連携”ということだと思っております。観光ということを取りあげても、これは単にそれぞれの市町村だけではできないものではないわけですし、広域的に進めていかなければいけません。今私たちは中海を取り囲む4市1町で「中海市長会」をつくっております、4年目を迎えるところです。最初の目的はこれから道州制などの広域連携を迎えたときに山陰地方の力を確立しておく必要があるということでした。その一番の狙いというのはこの中海の出口のところにあります重要港湾の境港と、米子市と境港市にまたがっている米子空港を利用して環日本海交流を進めてい

くということです。その拠点として中海圏域を位置づけしていくということで、これまでいろいろな施策を投入しながら、一体化を図ってきました。わたしたちの合言葉は、“一つの市になったつもりでいろいろなものごとを考えていこう”ということでございます。その施策の中で、昨年6月に境港に就航しましたDBSクルーズへの運行助成があります。韓国東海とロシアウラジオストクを結ぶ定期貨客船ですので、お客様と貨物、つまり貿易、観光振興を担っているものでして、この圏域にとって非常に期待をしているものでございます。

この松江市では今一番大きなブランドとしては牡丹がありまして、この中海の真ん中に浮かびます大根島で年間200万本を生産しておりまして、そのうち40万本を海外に輸出しております。この牡丹の一番の強みは、いつでも開花をさせることが出来るという開花調整技術を持っていることです。普通、牡丹は5月前後に咲くものですが、12月、1月の寒い時期でも、7月、8月の暑い時期でも指定された日に咲かせることができ、世界でこの牡丹を愛好していただくことができるわけです。こうした海外へのぼたんの輸出についても、このDBSクルーズを使ってウラジオストクへということを考えているところです。

この中海圏域は島根県と鳥取県の県境をまたがってしまっていて、いろいろなことを市町レベルでやることについてはあまり壁がないのですが、両県ということになりますと、いろいろな壁がありますし、その壁を打開していかなければならないと思っているところでございます。

今日の講演会・パネルディスカッションで現状、今後の課題、これから取り組んでいかなければならないことをいろいろな視点から出てくるものと思っています。ぜひご来場の皆様方も自分たちの地域の問題に照らし合わせて、考えていただき、参考にさせていただければと思います。

終わりにになりましたが、この日本海にぎわい・交流海道ネットワーク会員の皆様のますますのご発展とご健勝を祈念いたしますとともに、ご来場の皆様方に改めまして感謝を申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

今日は長時間になりますけど、どうぞよろしく願いいたします。